

UNNキャンパス原稿書式

社会・地域で、子育て支援！！

NPO法人うつくしまNPOネットワーク
理事長 樋口葉子

▼少子化はいつから始まったのだろうか…。私が初めてこの言葉を聞いたのは平成になってからだと思う。様々な少子化対策が打ち出されてきたが、残念ながら少子化を止めることはできず、平成17年の合計特殊出生率1.26（全国）1.49（福島県）は、衝撃的だったのを覚えている。あれから18年が過ぎようとしている。令和4年は1.27（福島県）となり、3年連続で過去最低を更新した。県内で1年間に生まれた赤ちゃんの数は9,709人で初めて1万人を割った。このまま少子化が続けば、一体どうなってしまうのか。10年後、20年後の社会を考えると、恐ろしい。

▼「子育て支援」とは、子どもを産み育てるために、人手や金銭的な面、情報などのサービスを提供することで、平成以降、行政や企業・NPO団体・医療従事者・大学・地域のコミュニティセンターなどにより、様々な支援が行われている。具体的には、児童手当の拡充、医療費助成、子育て支援施設でのサービス（子どもの発達・育児の相談、情報交換、一時預かりなど）がある。

▼「子育て支援」といっても、多種多様で以前は考えられないような支援（妊娠中の健診費用・出産費用がかからない、子どもが生まれたら出産見舞金がもらえるなど）が当たり前となっているし、ファミリーサポート（子どもの預かりや送迎）や病児保育室、ホームスタート（ボランティアによる家庭訪問）などは、この10年ほどの間に整備され、多くの子育て家庭が利用している。

▼地域子育て支援拠点（子育て支援センター・ひろば・サロンなど）は、地域の子育て支援の充実と、妊娠・出産・子育て中の不安や孤独の緩和などを目的に自治体から委託を受けた法人や民間が設置し、全国で7,800カ所以上に達している。毎日の子育てで不安になったとき、気軽に頼れる場所としてぜひ活用してほしい。

▼とここまで書いてきたが、私たちのしている支援はあくまでも子どもありきで、そもそも子どもが産まれないことには何も始まらない。家庭を築き子どもを産み育てるかどうかは個人の選択に委ねられるものなので、それを望む人が一人でも多く増えるよう、安心して子どもを産み育て、子どもが健全に育つことができる環境を整えることが重要だと思う。そのためには、行政や企業、NPO法人等地域の所団体を始め、社会全体の更なる意識改革（子どもは社会の宝！）と国の思い切った対策が不可欠だと思う。高齢者世代の役割も大きい。こどもがまんなかの社会を実現するために今年4月に設立された「こども家庭庁」に大いに期待している。

（2023年10月6日記）